

28amG-009

国際医療福祉大学薬学部における血圧測定の実用実習（第5報）－カフェインの急性昇圧作用における性差の解析－

○大出 浩子¹, 宮川 和也¹, 中谷 善彦¹, 宮岸 寛子¹, 池田 俊也¹, 天野 託¹, 原 明義¹(¹国際医福大薬)

【目的】本学では、フィジカルアセスメント実習の一端として、学生自身が検査者または被験者となり、自動血圧計や水銀血圧計を用いて血圧を測定する基礎実習と、コーヒー飲用の後の血圧変動を調べる実用実習を行っている。これまでの実用実習において、コーヒー中に含まれるカフェイン(CF)が急性に血圧を上昇させることが明らかとなった。しかし、この CF による昇圧反応に性差があるか否かについては殆ど知られていない。そこで今回、CF 摂取後の血圧変動の程度を男女間で比較検討した。

【方法】薬学部3年生169名(男65名、女104名)にCF抜きコーヒー(ネスカフェ赤ラベル)、またはこれにCF(菱山製薬)0.2gを添加したCF入りコーヒーを二重盲検法で無作為に飲用させた。飲用前およびコーヒー飲用30、60、90分後に学生自身が上腕式自動血圧計を用いて血圧(収縮期・拡張期)と心拍数を測定した。さらに、コーヒーの飲用習慣についてアンケート調査を行い、その結果から男女それぞれコーヒー常飲者と非常飲者に分けてCFによる昇圧反応を解析した。

【結果・考察】コーヒー飲用30分後の収縮期血圧についてみると、女性のCF摂取群は同非摂取群より5.3mmHg高値であったのに対し、男性のCF摂取群は同非摂取群と比較し1.7mmHg高値を示したに過ぎなかった。同様に、コーヒー飲用60、90分後のCFによる昇圧反応も、女性においてより顕著であった。CFの昇圧作用では耐性を生じることが報告されていることから、次にコーヒー常飲者と非常飲者に分けてCF摂取後の血圧変動を解析した。その結果、CFの昇圧作用は、男女ともにコーヒー常飲者よりも非常飲者で顕著であった。また、コーヒー非常飲者の昇圧反応は、男性よりも女性において高度であった。以上の結果、CFの急性昇圧作用に対する感受性は、男性と比較し女性において高いことが示唆された。